

人手がかかる果樹栽培において生産振興を図るうえで、気候など当地域の環境に適応する生産ノウハウも併せて引き継いでいく必要があることから、メディアやネットツールを活用して果樹栽培の基本的知識を周知し、視聴者が果樹栽培に興味を持ち、容易に果樹作業に携われる環境を整える。また、労働力確保と併せ、研修会等により経営体に対して従来の雇用に関する意識の変革を促す。事業を通じて、労働者・経営体が相互に意見や要望を出し合うことで栽培技術の継承と併せて、地域に適合した雇用体系の形成につなげる。

## 事業実施主体構成員

秋田県鹿角地域振興局、鹿角市、小坂町、鹿角果樹協会、JAかづの、同りんご生産部会、同北限の桃生産部会、鹿角市農業委員会、小坂町農業委員会、秋田県農業共済組合、秋田県農地中間管理機構（計11委員）


## 実績値（目標値）

- ①労働力受入担い手農家数 **65件**
- ②労働環境に満足している被雇用者の満足度 **8割以上**

## 令和2年度取組み内容

<b>ア 労働力の需給状況の把握</b>
平成29年に協議会で実施した「果樹労働力調査」により、人口減をはじめとした慢性的な課題が要因での労働力不足と分析している。特に人手が足りない作業（時期）として、リンゴ・桃共に「摘果（5月～7月）」が挙げられ、その時期の人材確保要望が多い。
<b>イ 労働力の確保・育成</b>
昨年度作成した動画を活用しながら、11月末までに計20回のサポーター育成講習会を実施。今2月中に病害虫に係る講義を行い、当年度については計画どおりの実施予定。また、1月末にリンゴ選定講習会の様子を撮影し、編集後2月末に「youtube」にアップする。
<b>ウ 労働力等のマッチング及びデータベース化</b>
平成30年より育成した7名が、今年度よりサポーターとして稼働。また2年目の実技研修者4名と併せて、5月より11月末までに延べ17件の経営体に対して労働力を提供。他経営体より労働力提供に対して問い合わせもあるが、サポーター数が足りていない状況にある。◆令和2年度実績：【正規サポーター7名 140日稼働 総時間数：700時間超】【実技研修4名 248日稼働 総時間数：1,546.5時間】
<b>エ 農業の「働き方改革」への取組み</b>
2月に経営体（農家）、サポーターを参集し、昨年1年を通してのマッチング・作業に係る意見要望等を聴取のうえ、来年度のマッチング（仮）を実施。また「意識改革」を図る講習会は、コロナ下を考慮して、サポーター受入希望経営体を対象を絞り勉強会を実施。
<b>オ 他産地・他産業との連携による労働力確保</b>
鹿角市と秋田労働局が締結した「鹿角市雇用対策協定」で掲げた取組に参画しており、情報収集につとめている。また、今年度コロナ下において宿泊業が打撃を受けているが、離職をきっかけとして年度途中よりサポーター育成講習会に参加される方がいた。

## 課題と令和3年度の実施内容

<p><b>ア 労働力の需給状況の把握</b></p>	<p><b>【課題】</b> 経営体からは、早い時期でのマッチング（3月中）を求められている。経営体同士繁忙期がかぶるため、一定時期でのサポーター要望が高い。</p>	<p><b>【次年度の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○2月の意見交換会実施後、2年目の研修生及び正規サポーターは今年度末よりマッチングを行う。併せて新規受入を希望経営体に事前面談を実施する。</li> <li>○サポーター育成講習会では2コース（「平日」「土日」）での選択制としていたが、新たに「即戦力コース」を創設。平日・土日どちらかの講座を受講し、かつ受入農家での「実技研修」を行いながら経験を取得させ、翌年からの正規サポーターとしての稼働につなげる。</li> <li>○なるべく正規サポーターと研修生を1セットとし、栽培知識や要領等の意見交換や交流を行わせ、孤立させないようサポーター間の連携を図る。</li> </ul> 
<p><b>イ 労働力の確保・育成</b></p>	<p><b>【課題】</b> 経営体（現場）からはより短期間での経験習得とサポーター配置を求められる。サポーター側からは単身で配置される事に違和感を感じる（心細い）、という意見がある。</p>	<p><b>【次年度の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○来年度より鹿角市で実施する「農業サポーターマッチング事業」により、アプリを活用したマッチングを実施。既存の果樹サポーターがアプリに登録・活用（試験的稼働）することで一元集約化する。また、アプリを通じて「稼働実績の見える化」をすることで、管内経営体の違和感の払拭を図る。</li> <li>○「1経営体につき1人のサポーターを配置」という端的な考えにとらわれず、「近隣経営体が組んで、1人のサポーターを雇用」「短時間で複数名を雇用」といった柔軟な雇用ができるよう経営体との面談・巡回等により周知する。</li> <li>○経営体の求人要望過多の場合の優先順位の目安として、経営体側に労務管理等の講習会受講によるインセンティブ付加を検討課題とする。</li> <li>○来年末に、研修生を含むサポーターや経営体に対して当該事業に係る3年間を通じた労働環境に係るアンケートを実施し双方の満足度の調査を行う。</li> </ul>
<p><b>ウ 労働力等のマッチング及びデータベース化</b></p>	<p><b>【課題】</b> マッチングは初対面時にすべて三者立会を実施し、注意事項等を説明のうえで稼働しているが、サポーター・受入経営体数が増えるにあたり、今後マンパワー面で対応できないことが想定される。</p>	<p><b>【次年度の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○来年度より鹿角市で実施する「農業サポーターマッチング事業」により、アプリを活用したマッチングを実施。既存の果樹サポーターがアプリに登録・活用（試験的稼働）することで一元集約化する。また、アプリを通じて「稼働実績の見える化」をすることで、管内経営体の違和感の払拭を図る。</li> <li>○「1経営体につき1人のサポーターを配置」という端的な考えにとらわれず、「近隣経営体が組んで、1人のサポーターを雇用」「短時間で複数名を雇用」といった柔軟な雇用ができるよう経営体との面談・巡回等により周知する。</li> <li>○経営体の求人要望過多の場合の優先順位の目安として、経営体側に労務管理等の講習会受講によるインセンティブ付加を検討課題とする。</li> <li>○来年末に、研修生を含むサポーターや経営体に対して当該事業に係る3年間を通じた労働環境に係るアンケートを実施し双方の満足度の調査を行う。</li> </ul>
<p><b>エ 農業の「働き方改革」への取組み</b></p>	<p><b>【課題】</b> 当協議会が関わるという条件で人を受け入れる（見ず知らずの人を雇う違和感）、といった経営体も見られる。</p>	<p><b>【次年度の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○他地域との連携には、当地域までの「移動手段」と「最低賃金」いう大きな課題があるため、実現はハードルは高いと考えている（そのため、管内雇用の流動化・掘り起こしをメインとして取り組んだ）。しかし、当地域の福祉関連機関との連携は「移動手段」がある程度解消されれば見込みがあるものと思われるため、来年度以降協議を進めていきたい。</li> </ul>
<p><b>オ 他産地・他産業との連携による労働力確保</b></p>	<p><b>【課題】</b> 当方では「管内労働力」を確保のメインターゲットとして本事業に取り組んでおり、他地域ほど他産業（福祉）等に対してアプローチしていない（上記エの課題もある）。</p>	<p><b>【次年度の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○他地域との連携には、当地域までの「移動手段」と「最低賃金」いう大きな課題があるため、実現はハードルは高いと考えている（そのため、管内雇用の流動化・掘り起こしをメインとして取り組んだ）。しかし、当地域の福祉関連機関との連携は「移動手段」がある程度解消されれば見込みがあるものと思われるため、来年度以降協議を進めていきたい。</li> </ul>